若手アーティスト支援プログラム Voyage2026

松田ハル展 あんせすた〜〜〜ず!!! Ancestors of a Virtual Town

あるがあく展 木漏れ日蒐集

《木漏れ日蒐集 Luminous Trace》2026（290×385mm　木版画・シルクスクリーン）あるがあく

©halmatsuda

2026.7.18土－9.6日　塩竈市杉村惇美術館

開館時間10時〜17時（最終受付16時30分）**月曜休館**（7/20は開館、翌日休館）

展示観覧料（常設展込）**：一般500円　大学生・高校生400円　メンバーシップ・中学生以下無料**　※各種障がい者手帳を提示された方は割引。団体割引有。

問合せ：塩竈市杉村惇美術館（宮城県塩竈市本町8－1　電話022－362－2555　http://sugimurajun.shiomo.jp/）

主催：塩竈市杉村惇美術館　　共催：塩竈市　　助成：公益財団法人カメイ社会教育振興財団（仙台市）

後援：河北新報社　朝日新聞仙台総局　毎日新聞仙台支局　読売新聞東北総局　tbc東北放送　仙台放送　ミヤギテレビ　khb東日本放送　エフエム仙台　BAYWAVE78.1FM　宮城ケーブルテレビ株式会社　仙台リビング新聞社

若手アーティスト支援プログラム Voyage2026

本プログラム 11 回目を数える今回は、公募により選考された版画家・あるがあく、アーティスト・松田ハルをご紹介します。

あるがあくは、主に木版画の制作を通して、目に見えない「揺れ動く感情」を視覚化し表現することを試みています。木版画は図柄を版に彫り起こし、紙に摺り取るなどの工程を経て制作します。それらを繰り返して生みだす版の重なり、かすれやにじみなど木版画特有の性質とシルクスクリーンを組み合わせることで、人の複雑な感情を表現しています。近年取り組むシリーズ「木漏れ日蒐集」では、木漏れ日の一瞬のきらめきや光と影をとらえながら、木漏れ日の揺らめきに人の感情の揺れ動きを重ねあわせています。

祭り行事や市民活動が盛んな塩竈の地は、多賀城市出身のあるがにとって人々の喜怒哀楽さまざまな感情に触れることができる地であると言います。特に鹽竈神社は、人々の思いが繰り返し向けられる場であり、人生の過程において人々が思いをこめて集い、感情の揺らぎが集まる場所と言えます。今回あるがは、人生の転機に抱いた祈りや願いなど多様な感情が集まる神社でも木漏れ日を採取し、新作を制作しています。幾重にも重なる木漏れ日の揺らめきに感情を投影しながら、私たちの日々のさまざまな感情を肯定するひとときとなれば幸いです。

松田ハルは3DCG（3次元コンピュータグラフィックス）や VR（バーチャルリアリティ）などの技術を用いた作品を制作しています。テクノロジーを駆使した新たな鑑賞体験を創出しながら、「物質と非物質」「現実とフィクション」といった二項対立的なテーマを思考し、複製メディアの歴史を問い直しています。

岩手県陸前高田市出身の松田は、東日本大震災の発生から 10 年以上を経た故郷の海岸で目にしたさまざまな漂着物が、町や生活の断片であり、見えない過去を想起させる存在に変わっていると感じました。本展ではこの経験と、陸前高田の地で生きてきた自身の先祖の歴史をふまえ、塩竈から陸前高田までの海岸線を辿り、採取した漂着物の欠片を起点に平面、映像作品等の新作を発表します。「現実と記憶、欠落と想像」の間に漂う時間を可視化し、漂着物の断片から土地の記憶を再構成することを試みます。現実と仮想現実、過去と現在を行き来しながら、土地の履歴や人々の歩みに新たな思いを寄せる機会になることを願っています。

ギャラリートーク　あるがあく・松田ハル

2026/7/18（土）　14 時　予約優先／定員 15 名

作品解説等、作家によるギャラリートーク。

※要観覧料（メンバーシップ会員、中学生以下無料）

若手アーティスト支援プログラム「Voyage」は、これからの活躍が期待される若手アーティストの可能性に光をあて、新たなステップを提供することを目的に、展覧会を中心としてトークやワークショップなど多様な表現の機会を設ける事業です。これまで、多くの人々にとって新たな才能や感性と出会える場となるよう毎年度ごとに異なる作家と共に取り組んできました。展示制作にかかる費用の一部のほか、企画や広報などに関する支援を通して、地元にゆかりのある若手アーティストの意欲的な表現活動をサポートし、発表の場を提供します。
今年度の特別審査員は、小田原のどか氏（彫刻家・評論家・出版社代表）、鹿野護氏（デザイナー・東北芸術工科大学教授）、服部浩之氏（キュレーター・国際芸術センター青森館長）です。

塩竈市杉村惇美術館
SHIOGAMA SUGIMURA JUN MUSEUM OF ART

あるがあく（ARUGA Aku）

《komorebi shu shu 25-15e》
2025
495×350mm
木版・シルクスクリーン

版画家。1987 年宮城県多賀城市出身、在住。2011 年東北芸術工科大学芸術学部美術科洋画コース版画専攻卒業。木版画やシルクスクリーンなどの版画技法を用いて、揺れ動く感情を表現する。日常に起こる内面の変化と、それらを抱えながら生きる人々に注目し、日々の営みの肯定を試みる。2016 年より仙台美術研究所版画講座講師。2022 年より多賀城市にて版画工房ギャラリー「在る print studio」を主宰。美術鑑賞と創作の場を提供している。

関連企画　木版画ワークショップ

2026/8/22（土）　13 時〜16 時　講習室

定員 15 名（小学 5 年生以上）　**参加費 1,000 円**（材料費込）

［7/18（土）　10 時申込開始］ホームページまたは電話にて

松田ハル（MATSUDA Hal）

《Virtual Altar》
2025
1620×1308mm
パネルにキャンバス
シルクスクリーン、
アクリル絵具

アーティスト。1998 年岩手県出身。2021 年筑波大学芸術専門学群美術専攻版画領域卒業。2023 年京都芸術大学大学院グローバル・ゼミ修了。VR で描いた 3D オブジェクトを版画として定着させ、リアルとバーチャル、AI と人間といった境界を平面へと変換する。また、シルクスクリーン印刷や彫像へのドローイングによって、現実空間にイメージを表出する。進化する技術により拡張された想像力と、変わらない身体との乖離を見つめながら、複製メディアの歴史を遡る。